

〈やさしい日本語〉とは

1

一橋大学国際教育交流センター教授 庵 功雄

ISAOIORI@COURANTE.PLALA.OR.JP

[HTTP://WWW12.PLALA.OR.JP/ISAOIORI/](http://WWW12.PLALA.OR.JP/ISAOIORI/)

1. 〈やさしい日本語〉が求められる背景

2

- 日本に住む外国人の増加
- コンビニ、新聞配達...
- <https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/dependence-on-foreign-workers/> (日本経済新聞電子版 2018.8.2。外国人依存度、業種・都道府県ランキング)

1. 〈やさしい日本語〉が求められる背景

3

- 在住外国人の増加
- (背景) 人材移動のグローバル化、
- 日本の少子高齢化、
- 生産年齢人口(15～64歳)の減少
- →海外に成功の場を求める外国人と日本社会の要請の方向性が一致
- 「我々は労働力を呼んだが、やってきたのは人間だった」(スイスの作家マックス・フリッシュ)
- →この人たちが日本で自己実現できる可能性を保証する必要性
- →〈やさしい日本語〉を用いてこの問題に取り組む

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

4

減災のための「やさしい日本語」

- 阪神淡路大震災 (1995)

→ 日本語も英語も不自由な外国人が二重に被災

→ 災害時の日本語による情報提供

→ 「やさしい日本語」

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

5

減災のための「やさしい日本語」(松田ほか2000)

A <原文>

けさ5時46分ごろ、兵庫県の淡路島付近を震源とするマグニチュード7.2の直下型の大きな地震があり、神戸と洲本で震度6を記録するなど、近畿地方を中心に広い範囲で、強い揺れに見舞われました。

B <言い換え文>

今日、朝、5時46分ごろ、兵庫、大阪、などで、とても大きい、強い地震がありました。地震の中心は、兵庫県の淡路島の近くです。地震の強さは、神戸市、洲本市で、震度が6でした。

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

6

〈やさしい日本語〉の誕生

- 外国人に対する情報提供にとっては、災害時だけではなく、平時も重要
 - 平時における外国人に対する情報提供
 - 〈やさしい日本語〉

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

7

〈やさしい日本語〉研究の発展

1. 在住外国人(成人)対象の情報提供
2. 外国にルーツを持つ子どもたちの日本語教育
ろう児に対する日本語教育
→マイノリティ(少数者)のための〈やさしい日本語〉
3. 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉
4. 日本語表現にとっての〈やさしい日本語〉
→マジョリティ(多数派)にとっての〈やさしい日本語〉

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

8

- 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
 - →主に成人対象
- 2. バイパスとしての〈やさしい日本語〉
 - →外国にルーツを持つ子どもたち、ろう児対象

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

9

- 新来の定住外国人にとって最も重要なこと
- → 日本を「居場所」だと感じられること
- → 母語で言えることを日本語でも言えるようになること
(イ2013)

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

10

- **居場所作りのための〈やさしい日本語〉の3つの側面**
- 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

11

- 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

12

- 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
- 定住外国人が日本で生きていくのに必要な最低限の日本語教育を、公費により、プロの手で行うことが必要
- こうした初期日本語教育の公的保障の対象となる日本語を、本研究における〈やさしい日本語〉と定義する

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

13

- 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

14

- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 英語は共通言語にならない(岩田2010、庵2016)

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

15

● 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉

〈これまで〉

外国人側に一方的に日本語習得を要求

〈これから〉

日本語母語話者〈受け入れ側の日本人〉

↓ コード(文法、語彙)の制限、
日本語から日本語への翻訳

〈やさしい日本語〉(地域社会における共通言語)

↑ ミニマムの文法(Step1, 2)と語彙の習得

日本語ゼロビギナー〈生活者としての外国人〉

→ 実現するか否かは日本語母語話者の意識次第

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

16

- 1. 初期日本語教育の公的保障のための〈やさしい日本語〉
- 2. 地域社会の共通言語としての〈やさしい日本語〉
- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

17

- 3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉
- 学校型日本語教育と地域型日本語教育(尾崎2004)
- 「学校型」における「初級」の目安は300時間
- 「地域型」の標準は週2時間→「初級」を3年？

	学校型	地域型
参加者間の関係	教師－学生(契約関係)	学び合い(cf. 庵2013)
外国人のビザ	留学ビザ	就労ビザ(家族滞在ビザ)
初級の標準時間数	300時間(旧JLPT3級) 集中予備教育	週2時間

→地域型日本語教育の実情に合った「初級」(「地域型初級」)の必要性

4. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉

18

3. 地域型初級としての〈やさしい日本語〉

- 学校型日本語教育の「初級」は、地域型日本語教育にとっては「重い」
- 地域型の実情に合った「初級」（「地域型初級」）を考える必要がある
- 「母語でなら言えることを日本語でも言える」ようにする
- ←外国人が少ない材料で能動的に自分が言いたいことを日本語で表現できることを目指す（イ2013）
- → **ミニマムの文法**としてのStep1, Step2 (cf. 庵2015a)
- → 『**にほんごこれだけ！ 1, 2**』

3. マイノリティのための〈やさしい日本語〉

19

- 1. 居場所作りのための〈やさしい日本語〉
 - →主に成人対象
- 2. バイパスとしての〈やさしい日本語〉
 - →外国にルーツを持つ子どもたち、ろう児対象

5. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

20

- 「移民」受け入れで最も重視しなければならないのは、「移民」の子ども（外国にルーツを持つ子ども）の問題
- 彼／彼女たちが、まっとうに努力すれば、その国の中で、その国の子どもたちと対等に競争して、自力で人生の可能性を開いていけること（社会的流動性）が保障されていることが重要
- これに対する配慮を欠いたまま「移民」の受け入れが進めば、その国の中に経済的／社会的に排除された階層を作り出すことになり、それは将来的に非常に大きな問題を発展する可能性が高い

5. バイパスとしての〈やさしい日本語〉

21

- 彼／彼女たちが、まっとうに努力すれば、その国の中で、その国の子どもたちと対等に競争して、自力で人生の可能性を開いていけることが保障されている(社会的流動性が保障されている)ことが重要
- 同様のことは、ろう児についても言える
- **バイパスとしての〈やさしい日本語〉**は、上記の下線部を実現するために、外国にルーツを持つ子どもやろう児ができる限り高校進学時、遅くとも高校卒業時に、日本語母語話者の子どもと対等に競争できる日本語能力を身につけられるように、必要な方策を研究するもの

6. 外国にルーツを持つ子どもたちの言語問題

22

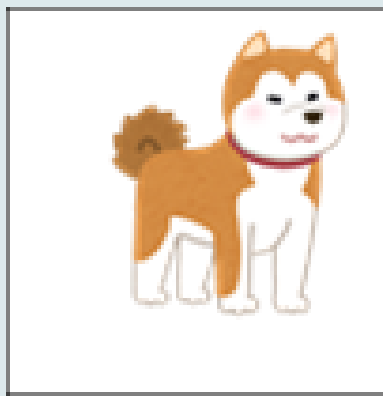
- 外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語教育
- →「まっとうに努力すれば、日本人の子どもたちと対等に競争できる」ようになること(社会的流動性の保障)を目指す
- →このことを抜きに移民の受け入れが進むと、日本国内に「階層の固定化」が生じ、潜在的な社会的不安定要因になる

6. 外国にルーツを持つ子どもたちの言語問題

23

- 漢字の問題
- 言語(記号)の恣意性(ソシユール)

イヌ
Dog
Chien
狗
.....



指すもの

指されるもの

6. 外国にルーツを持つ子どもたちの言語問題

24

- 漢字の問題
- <日本人の子どもたち>
- 「いぬ、いえ、がっこう」(発音)と意味(指示対象)の関係はわかっている、ひらがなでも書ける
- →学習するのは漢字で書くことだけ
- <外国にルーツを持つ子どもたち>
- 「いぬ、いえ、がっこう」(発音)と意味(指示対象)の関係から学ぶ必要がある
- →日本の漢字には音読みと訓読みがあるのが普通

6. 外国にルーツを持つ子どもたちの言語問題

25

- **漢字の問題**
- <外国にルーツを持つ子どもたち>
- 「いぬ、いえ、がっこう」(発音)と意味(指示対象)の関係から学ぶ必要がある
- →小学校で習得すべき漢字は約**1000**字
- ←アラビア文字は**28**字
- →日本の漢字には音読みと訓読みがあるのが普通
- →ごく短期間で身につけなければならない
- ←高校受験(高校進学率約**30%**?)
- →新しい漢字シラバスが必要(cf. 庵・早川**2017**)

6. 外国にルーツを持つ子どもたちの言語問題

26

- **BICS** (日常言語) と **CALP** (学習言語) (バトラー2012)
- 指示詞 (コソア) の2つの用法
- (2) その本、取って。(現場指示)
- (3) 先日友人から本をもらった。その本は哲学関係のものである。(文脈指示)

6. 外国にルーツを持つ子どもたちの言語問題

27

- **BICS (日常言語) と CALP (学習言語)**
- (2) その本、取って。(現場指示)
- → 指示対象の特定に必要なのは、指示詞(「その」)ではなく、「指さし」や「視線」
- → **BICS (Basic Interpersonal Communication Skills)**
- (3) 先日友人から本をもらった。その本は哲学関係のものである。(文脈指示)
- → 指示対象の特定は、指示詞(「その」)の記号的性質を理解することが必要
- → **CALP (Cognitive Academic Language Proficiency)**

6. 外国にルーツを持つ子どもたちの言語問題

28

- 外国にルーツを持つ子どもたちに対する日本語教育
- 彼／彼女たちと日本人の子どもたちとの間には、スタート時点で大きな差がある
- 日常言語(BICS)は習得できるが、学習言語(CALP)は習得できない(バトラー2011)という問題もある
- →とりあえず上級まで早く行ける「バイパス」が必要
- →新しい文法シラバス(庵2015b)
- →バイパスとしての〈やさしい日本語〉

7. ろう児に対する日本語教育

29

- ろう児の第一言語は日本手話
- 先天的に聴覚に障害を持つろう児にとって第一言語 (L1) は「日本手話 (Japanese sign language)」であり、「日本語」は第二言語 (L2) である。ろう児 (ろう者) の言語問題を考える上で、このことは大前提
- 「日本手話」は、日本語や英語などと同じ自然言語 (natural language) である
- 日本手話 (手話言語) と日本語 (音声言語) の違いは、伝達手段として手話 (sign) を使うか、音 (sound) を使うかということ (だけ)

7. ろう児に対する日本語教育

30

- 日本手話と日本語対応手話(手指日本語)は全くの別物
- ろう児がL1として身につけている日本手話と、世の中で多く見られている「手話」とは全くの別物
- 後者は「日本語対応手話」と呼ばれることが多いが、「手話言語」としての条件を十分に満たしているとは言いがたいため、「手指日本語」と呼ぶべき(木村(2011)参照)

7. ろう児に対する日本語教育

31

- **第二言語としての書記日本語教育**
- 日本手話をL1とする話者が日本語をL2として習得する場合、必要なのは、書かれた日本語(書記日本語)を正確に読み、書くことができるということであり、話す、聞くという能力は(少なくとも一義的には)必要ではない
- 書記日本語が正確に書ければ、それをコンピューターに入れることで、聴者とコミュニケーションを取ることは容易にできる
- 書記日本語が正確に読めれば、ノートテイカーや音声認識ソフトを利用して日本語で話されている情報を手に入れられる

7. ろう児に対する日本語教育

32

- 音声がなくとも言語は習得できるか
- 問題となるのは、音声がなくとも言語は習得できるのかということ
- しかし、上記のように、習得対象が「書記日本語」に限られるとすれば、それは十分に可能
- そのことを証明する事例が日本の歴史上に存在する
- 漢文の読み下し
- 古代日本は、政治、経済、文化、宗教などありとあらゆる要素を中国大陸および朝鮮半島から輸入し、その際、古代中国語を媒介としたが、遣隋使／遣唐使レベルの当時のトップエリートですら、口頭言語としては古代中国語をほとんど理解できなかった
- 「読み書きだけなら」、音声がなくとも音声言語を習得できる

7. ろう児に対する日本語教育

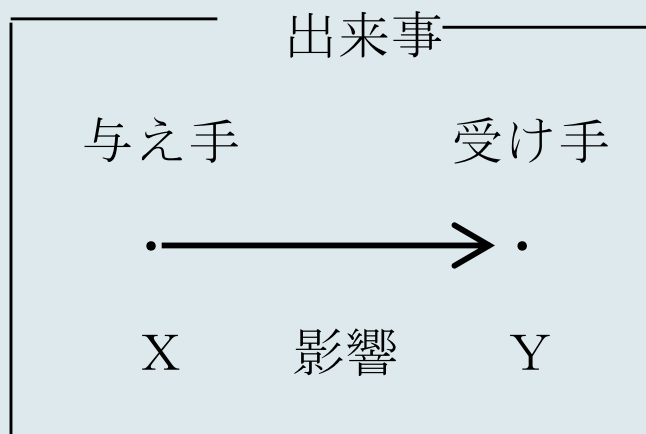
33

- 具体例－「が、を、に」プロジェクト－
- 以上のことを踏まえて、明晴学園において、日本語教育の方法論に基づく教育実践を開始している
- 最初に取り組んでいるのは、格助詞「が、を、に」の教育

7. ろう児に対する日本語教育

34

- 具体例－「が、を、に」プロジェクト－
- (4) 2つの人、ものが関わる出来事(2項述語)について、動作をする人(動作主)に「が」をつけ、動作の影響を受けるもの／人(対象)に「を」をつける



7. ろう児に対する日本語教育

35

- 具体例－「が、を、に」プロジェクト－
- (4) 2つの人、ものが関わる出来事(2項述語)について、動作をする人(動作主)に「が」をつけ、動作の影響を受けるもの／人(対象)に「を」をつける
- 動作主、対象: **深層格** (deep case) (「意味としての格」)
- が、を、に: **表層格** (surface case) (「形としての格」)
- 深層格がわかっているならば、表層格の習得は難しくない

7. ろう児に対する日本語教育

36

- 具体例－「が、を、に」プロジェクト－
- (5) a. John drinks a cup of coffee.
- b. ジョンが コーヒーを 飲む。
- →英語母語話者に日本語の「が」「を」を教える場合
- →日本語母語話者が英語を学ぶときはこの逆
- →このレベルで挫折する学習者はまずいない
- →ろう児が格助詞「が」「を」を習得できない(とされている)のは、日本語教育の観点からは不可解

7. ろう児に対する日本語教育

37

- 具体例－「が、を、に」プロジェクト－
- Iori & Oka(2016):
- 明晴学園の児童・生徒を対象とする調査で、子どもたちが深層格を理解していることを確認



7. ろう児に対する日本語教育

38

- 具体例-「が、を、に」プロジェクト-
- 百科事典的知識に合う図1は小1でも理解できる。百科事典的知識に合わない図2は小5ぐらいにならないと理解できない。



図1

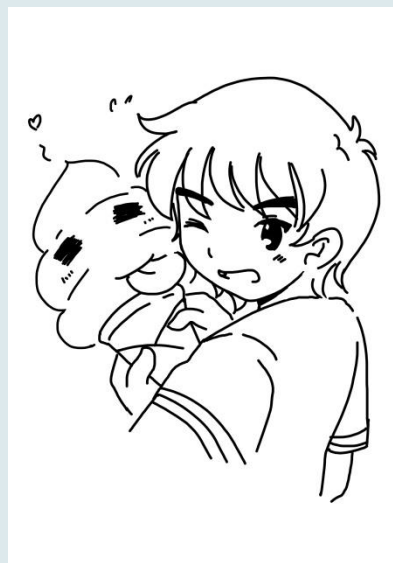


図2

「バイパスとしての〈やさしい日本語〉」の意義

39

- 外国にルーツを持つ子どもたちやろう児(ろう者)は、日本社会にとって、潜在的なポテンシャル(可能性)を持った存在
- 彼／彼女らが、日本語母語話者と競争して、職業の選択肢を多様に持てるようになることで、彼／彼女らがTaxpayerになる可能性が高まる
- 彼／彼女らが多文化を持った存在として、日本社会にインパクトを与えていくことも期待できる
- そのためには、日本社会の共通のコードである日本語を習得する必要がある
- → **バイパスとしての〈やさしい日本語〉**の意義

2. マイノリティのための〈やさしい日本語〉と マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

40

〈やさしい日本語〉研究の発展

1. 在住外国人(成人)対象の情報提供
2. 外国にルーツを持つ子どもたちの日本語教育
ろう児に対する日本語教育
→マイノリティ(少数者)のための〈やさしい日本語〉
3. 日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉
4. 日本語表現にとっての〈やさしい日本語〉
→マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

8. マジョリティにとっての〈やさしい日本語〉

41

- **日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉**
- 失語症: 言語学で古くから研究されている分野
- ←失語症の患者を観察することで脳のどの部位でどのような言語機能が司られているかがわかる
- →有標な存在が真理を照らし出す(健常者(無標)のデータから同様の結果を導くことはできない)
- →「外国人の日本語」も同様に「有標」な(≡特別な)存在であるために、同様の価値を持つ

8. マジヨリティにとっての〈やさしい日本語〉

42

- **日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉**
- (日本語)母語話者が日本語(母語)を用いて行う上で最も重要な言語活動:
- 自分だけが知っていることを相手に伝えて相手を自分の意見に同意させる
 - 論文、口頭発表(大学)
 - 就活、(各種)プレゼン(企業)
 - 自治会の交渉(一般社会)
- →外国人を相手にロールプレイを行うと、外国人の日本語が「有標」であるために、外国人との対話場面(接触場面)が真正さ(authenticity)を持つ
- → **日本語表現の鏡としての〈やさしい日本語〉**

8. マジヨリティにとっての〈やさしい日本語〉

43

- 「公平な耳」の必要性
- (4) 日本のお手自勤車会社の工場長がタイからの技術研修生に会った時、「わたし...じどうチャ...」などと話しているのを聞いて、引率の日本人に、この人達はほんとうに仕事ができるのか」と心配そうに言ったというが、これなどは、「わたし」や「じどうチャ」などという発音の仕方が、日本語では幼児の話し方に似ているところから、勝手に人格や能力の判断にまで結び付けて出された反応であったとまずは解釈できよう。(土岐1994)
- →音の区切り目の違い(←言語の恣意性)
- →タイ語では「し」と「ち」を区別しない一方、日本語にはその**区別**がある
- →それだけのことだが、それが**差別**につながっている

8. マジヨリティにとっての〈やさしい日本語〉

44

- 「公平な耳」の必要性
- 音の区切り目の違い(←言語の恣意性)
- →タイ語では「し」と「ち」を区別しない一方、日本語にはその区別がある
- →日本語には[si]と[ʃi]の区別がない
- →「シーシーズアシー」と”She sees a sea.”
- →「方言」や「外国人の日本語」を等しく日本語のバリエーションとして聞ける「公平な耳」(土岐1994)を持つことが重要

9. マインドとしての〈やさしい日本語〉

45

- 「技術」より重要なこと
- 〈やさしい日本語〉はマイノリティのためのものであるという認識が強く、〈やさしい日本語〉は書き換えや言い換えの「技術」に関する問題と認識されがち
- 公的文書やNews Web Easyの書き換えなどをプロが行う場合には、一定の制約の下で書き換えることが重要
- 在住外国人と一般の日本語母語話者の間の〈やさしい日本語〉ではこうした技術的な面を意識する必要はない
- 重要なのは、相手が何を言おうとしているのかを理解し、自分が相手に何を伝えたいのかを常に意識しながら、日本語表現を書き換えたり言い換えたりすること
- そうしたことを意識しながら日本語表現を行うことが、その人自身の日本語のコミュニケーション能力を高めることにつながる

9. マインドとしての〈やさしい日本語〉

46

- 「お互いさま」の気持ち
- 〈やさしい日本語〉にとって重要なのは、「技術」ではなく、考え方(マインド)
- 「マインド」を一言で言うと、「お互いさま」の気持ち
- 「わたし」「じどうチャ」といった発音を笑ってしまう気持ちが日本語母語話者には潜在的に存在する
- それは、[si]と[ji]の区別ができないことを英語母語話者に笑われるのと同じ
- 「わたし」という発音を笑いそうになったときに、もし、一歩立ち止まって、「自分が同じことをされたらどう感じるだろうか」と考えることができれば、おそらく笑うことはない
- →「多文化共生」の第一歩

9. マインドとしての〈やさしい日本語〉

47

- 「バリアフリー」は誰のため
- バリアフリー: 全ての人々が社会に参加できるための手段(あべ2015)
- → 「障害者」というマイノリティのためのものと考えられがちで、そのために、「バリアフリー」のための予算が付きにくいといった事例も見られる
- → 人はけがをしたり年をとったりすれば移動困難者になる
- → 「健常者」と「障害者」は一時的な違いに過ぎず、だれもが「障害者」になる可能性を持っている
- → 「バリアフリー」は「マイノリティであるだれか」のためのものではなく、「いつかマイノリティになるかもしれない私」のために必要なものである

9. マインドとしての〈やさしい日本語〉

48

- 「バリアフリー」は誰のため
- バリアフリー: 全ての人々が社会に参加できるための手段(あべ2015)
- → 「バリアフリー」は「マイノリティであるだれか」のためのものでなく、「いつかマイノリティになるかもしれない私」のために必要なもの
- → 「情けは人のためならず」の本来の意味(情けは他人のためのものでなく、自分自身のためのももの)
- → 〈やさしい日本語〉の理念を体現

10. おわりに

49

- **だれでもできるジャンケン(あべ2015)**
- 「ジャンケン」をするときに、「健常者」と同じように、グー、チョキ、パーが出せない人がいた場合にどうするか
- →その人を排除する.....×
- →他の方策を検討する
- →グー>チョキ>パー>グーという関係(機能)を満たす記号を使えばよい
- 「障害者」を自分たちとは違うと見るのではなく、「障害者」の問題を自分の問題として考えること、これも、「相手の立場から考える」(「**お互いさまの気持ち**」)ことの実践例

追加情報

50

- 公開シンポジウム
- 〈やさしい日本語〉とその関連領域
- 2月8日(金)一橋大学東1号館1202教室(事前申込制)
- http://www12.plala.or.jp/isaoiori/sympo_hitotsubashi190208.pdf

- 庵功雄・岩田一成・佐藤琢三・柳田直美編(2019近刊)
『〈やさしい日本語〉と多文化共生』ココ出版

ご清聴ありがとうございました

51